


## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直しつつある」

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症や供給面での制約、原材料価格上昇の影響がみられるなか、一進一退の状況にある	緩やかに持ち直しつつある	




（注）4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。







## （判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	感染症の影響が続くなか、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	緩やかに持ち直しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	感染症の影響が続くなか、持ち直しの兆しがみられる	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	

設備投資	3年度は減少見込み	4年度は増加見込み	
観光	感染症の影響により厳しい状況にあるなか、一進一退の状況にある	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	
企業収益	3年度は増益見込み	4年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超となっている	「上昇」超となっている	
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	
公共事業	前年を上回る	前年を下回る	

## 【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、感染症の影響や原材料価格の上昇、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

スーパー販売は、衣料品の回復や総菜の需要増加により、引き続き堅調に推移している。コンビニエンスストア販売は、弁当や飲料水の売れ行きが回復するなど、緩やかに持ち直している。乗用車販売は、受注状況は好調であるものの、供給面の制約により足踏みの状況にある。ドラッグストア販売は、化粧品が回復傾向にあるなど、前年を上回っている。家電販売は、エアコン需要の高まりがみられており、持ち直しの動きがみられる。百貨店販売は、衣料品に動きがみられるなど、持ち直しつつある。ホームセンター販売は、DIY用品にみられた巣ごもり需要が落ち着いていることから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

このように、個人消費は全体として、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 生鮮食品が値上げされるなか、総菜が消費者にとって割安となっており、売上が伸びている。(スーパー)
- 行動制約が緩和されたことにより、人の動きにあわせて売れていく弁当や飲料水の売上が伸びている。(コンビニエンスストア)
- 受注が好調に推移する一方で、生産が追い付いていないため、受注残が過去最高に積みあがっている。(乗用車販売店)
- 外出する機会が増えたことにより、化粧品の売れ行きが伸び始めている。(ドラッグストア)
- 北海道のエアコンの普及率は低いいため、新規購入する消費者が多く、除湿機能付きや寒冷地対応などの高性能・高単価な商品が売れる傾向にある。(家電量販店)
- 外出する機会が増えたことにより、衣料品に動きがみられ、この2年間春物衣料品を購入していなかった方の購入もあった。(百貨店)
- ゴールデンウィーク以降来店客数が増加しており、コロナ前の売上を上回る良い流れとなっている。(飲食サービス業)

### ■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

生産活動は、「輸送機械」などが増加しているものの、「金属製品」や「鉄鋼業」などが減少しており、全体では足踏みの状況にある。

- 4月は生産量を伸ばしたが、5月は上海ロックダウンの影響により生産を抑制した。足下ではその影響は解消したものの、半導体不足の影響は依然として継続しており、生産は引き続き抑制的である。(輸送機械)
- 足下、道内工事向けの需要に動きがみられてきたものの、当期の生産は、需要の乏しかった前年の流れを受け、低水準となっている。なお、価格転嫁が追いつかない状況が続くなか、一部原材料の価格が為替の影響やロシア産シェアが大きくなることにより、さらに上昇している。(鉄鋼業)
- 感染症の影響緩和により、来客数が増加し、在庫が不足気味になるほど商品が売れたため、生産稼働率は上がっている。ただし、円安の影響によるコストアップなど課題がある。(食料品)

### ■ 雇用情勢 「感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は上昇しており、雇用情勢は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

- 新規求人数は、感染症による悪影響から回復していない業種が低水準であるものの、人手不足の業種が高水準にあり、業種によって動向にばらつきが見られる。全体としては増加傾向にあり、コロナ禍以前の水準になっていると判断している。(公的機関)
- 月間有効求職者数は、公的支援を受けた者による求職活動が長期化しており、コロナ禍前と比較すると高止まりしている。また、5月は感染症の落ち着きにより、求職活動を開始する動きがみられる。(公的機関)
- 派遣会社経由で人員の確保が可能であるが、直接募集をしても応募が無く、人手不足の解消に至らない。コスト高になる派遣会社や業務請負契約業者に頼っているため、不足気味と判断している。(窯業・土石製品製造業)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「娯楽業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 需要が旺盛な商品の販売拡大を目的として、生産基盤の強化などの投資を行う。(食料品)
- 再開発プロジェクトにおける大型投資をするため前年を上回っている。(電気・ガス・水道業)

■ **観光** 「感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

- 観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、来道客数は前年を上回っており、緩やかに持ち直しつつある。

- GW以降、間違いなく旅行需要は伸びている。6月の個人販売額は、コロナ前の7割半ばの水準まで戻す見込みである。(旅行業)
- 外国人旅行者は、6月の段階では10名以下の団体が入る程度で、全体の宿泊に対する影響はまだ小さい。7月も直接の影響はないものの、今後に向けた商談を行っており、徐々に外国人客も増えてくると予想している。(宿泊業)
- 修学旅行は堅調であり、個人客及びツアーも上向き傾向にあるため、繁忙期の夏季に向けて順調な滑り出しだと感じている。(宿泊業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字拡大となっていることなどから、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「「上昇」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年4-6月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(4年4-6月期)でみると、企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超となっている。

なお、先行きは、4年10-12月期に「下降」超へ転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱含んでいる」

- 住宅建設は、分譲住宅は前年を上回っているものの、持家、貸家は前年を下回っており、弱含んでいる。

■ **公共事業** 「前年を下回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額でみると、第1四半期は、独立行政法人等が前年を上回っているものの、国、北海道、市町村が前年を下回っており、全体では前年を下回っている。

■ **金融** 「貸出金残高は前年を下回る」■ **企業倒産** 「前年を上回る」■ **消費者物価** 「前年を上回る」